

山岡議員の先生討論

請願第3号 中学校卒業までの医療費無料化の拡充を求める請願について賛成の立場から、これを不採択とすべき、とする只今の厚生文教常任委員会委員長報告に対して、反対の立場から討論します。

本請願は、請願内容にも記されているように、甲賀市がこれまでから取り組んできた子どもの医療費助成制度。とりわけ、岩永市政になって以降も、昨年10月から、通院について、従前の小学校3年生まで完全無料化を小学校卒業まで拡充されたことを評価し、「子育て世帯にとって大変助かっています」と述べておられます。そして、安心して産み育てる環境、住み続けたい甲賀市にするためにも、入院も通院も中学校卒業まで完全無料化を早期に実現してほしい、という請願です。

いうまでもなく、子どもの医療費の無料化拡充は、全国の自治体で取り組まれ、毎年その内容が拡充されています。それは少子化対策・子育て支援策として、有効な施策であり、特に若い子育て世帯のみなさんの力強いサポートになっているからです。

滋賀県内でも、すでに高島市・米原市・竜王・愛荘・甲良・多賀では中学校卒業まで完全無料化を実施しています。豊郷町では高校卒業まで拡充しています。

厚生文教常任委員会では、「完全無料化ではなく一部負担をしてはどうか」「所得制限を設けるべき」などの意見がありました。もちろん、これまでは一部負担を導入したり、所得制限を設けたりしながら制度の充実が図られてきたわけです。そして今日では「完全無料化」としての拡充の取り組みが広がっています。こうした経緯をみれば、どの子ども、せめて義務教育の中学校卒業までは完全無料化にし、安心して子育てをする環境を整えることは、地方自治体の大事な施策です。

委員会では委員会協議会に切り替えて請願者の願意を聞く機会を得ました。大事な視点が述べられました。その後、委員会で意見交流があり、採決が行われましたが、その際昨年12月議会一般質問で「一日も早く中学校卒業時までには延長してもらいたいと切に願っております」と述べられた公明党の堀議員が請願に反対されたのは驚きです。また新年度予算要求で「子育て応援医療の中学3年生までの拡大」を掲げられている、凜風会の橋本律子議員・橋本恒典議員が反対されたのには驚きです。これらはパフォーマンスですか。議員として掲げられた公約はきちんと守るべきではないでしょうか。ましてや、反対理由を述べないで反対するというのは、請願者に失礼ではありませんか。

請願者は後に「もっと子どものこと、いのちのこと、真剣に話し合ってよ、市民の声に耳を傾けてよ、未来ある子どものこと、将来の甲賀市を支える子どものことでしょう」と感想を寄せられ、反対理由を述べないで採決が行われ、賛成少数だったことに、「暫く立ち上がれなかった」と述べておられました。

財源のことでしょうか、実施時期のことでしょうか。請願には、それらのことは明確に書いていません。書いているのは、中学校卒業まで拡充してほしい、という願いです。

岩永市長は「子育て・教育NO1」を掲げておられます。「子どもの健やかな成長と子育て世代の負担軽減を図る上で大変重要な施策である」と述べておられます。そして「福祉や教育など総合的な子育て支援策のなかで優先順位をつけて検討していく」と述べておられます。「しない」とは言っておられません。大いに検討すればいいことです。

他会派のみなさんも基本的にはその必要性を認識しているからこそ、一般質問でも、予算要望でも市長に実現を迫っているのではありませんか。

請願の願意を議会として、どう受け止めるのか。ここが大事です。

今からでも遅くはありませんか。議員個人の責任で、請願の願意をしっかりとふまえて、採択すべきと考え、賛成討論とします。